

# 下関市立大学広報



海峡の英知。未来へ そして世界へ。

公立大学法人

## 下関市立大学

Shimonoseki City University

2012年11月1日 第68号

発行：下関市立大学広報委員会

〒751-8510 下関市大学町 2-1-1

TEL. 083-252-0288

FAX. 083-252-8099

<http://www.shimonoseki-cu.ac.jp>

## 新しいオープンキャンパス開催

— 学生の顔が見えるイベントへ —

教授 高田 実 (入試委員会委員長)

「見ちゃろ、知っちゃろ 下関市立大学」を合言葉に、7月21日(土)と8月5日(日)、オープンキャンパスが開催されました。延べ人数で、695名(昨年比44名増)の参加をえました。

今年は、新しい校舎を見てもらうのももちろんのこと、もっと学生の顔が見えるイベントにしようと、企画を一新しました。

全体説明会の後、各学科に分かれて学科説明と模擬講義が実施されましたが、ここに学生の報告やプレゼンが盛り込まれました。午後からは英語、中国語、朝鮮語の体験講座が開かれ、ネイティブの先生との会話を楽しんでいただきました。

クラブ活動の紹介も新しい試みです。中庭では、文化系サークルが演奏や演技を披露しました。炎天下にもかかわらず、演奏に聞き入る高校生の姿がありました。また体育系クラブは、グラウンドや体育館で日頃の活動の様子を紹介しました。

生協学生委員会は、学内ツアー、学生と語ろうなどの親しみやすい対話の場を作り、学生FD委員会もプレゼンに加わりました。学生たちが、本学の魅力を熱く語りました。

会場には学生のパネルをたくさん掲示しましたが、これが好評で、同じ高校の先輩たちの写真を見つけて歓談する親子の姿がありました。

新企画「活躍するOB」では、山陽新聞社の記者として活躍されている竹久祐樹氏、本学のキャリアセンター長である上野恵美氏に、学生時代の思い出や仕事の現場についてご講演いただきました。

最後の、「小論文対策講座」では、小論文試験を乗り切るためにどのような勉強をしたらよいか、理解してもらいました。

新しいオープンキャンパス、本学の貴重な財産である学生に接する機会が増えました。言葉だけではなく、実感として、本学のよさをわかってもらえたはずです。



## 台湾国立聯合大学との調印式が行われました

教授 櫻木晋一 (広報委員会委員長)

7月23日(月)、本学と台湾の国立聯合大学との学術交流に関する覚書調印式が、本学本館Ⅱ棟5階大会議室で執り行われました。国立聯合大学の李隆盛学長と本学の荻野喜弘学長が覚書に署名し、両大学間の学術交流がスタートすることになりました。学生の相互派遣や研修等、これから具体的な行動の早期実現に努めていくことになります。

調印式には、聯合大学から李学長、林惠娟研究開発所長の2名、本学からは本間俊男理事長はじめ7名、下関ライオンズクラブの八丁裕之会長はじめ8名と苗栗県ライオンズクラブの陳鴻基会長はじめ4名が参加しました。この調印の背景には、2つのライオンズクラブの長い交流の歴史と仲立ちがあり、両ライオンズクラブの方々が調印に立ち会われた次第です。

両ライオンズクラブは30年以上にわたり学生訪問団を交互に派遣しており、この中に両大学の学生が含まれていた関係で、これまでも両大学の交流は非公式に続いていました。また、2007年には李学長をはじめとする聯合大学訪問団が本学を訪問されました。昨2011年4月の両ライオンズクラブによる働きかけをきっかけに交流協定締結に向けての協議が進められ、本年5月、本学と下関ライオンズクラブの訪問団が聯合大学並びに苗栗県を訪問し、大学間交流について両学長間で合意することができましたので、今回の調印に至りました。

下関ライオンズクラブから、この調印式の後、今回の交流協定締結を記念して桜の苗木(目録)が本学に贈呈されました。台湾の聯合大学でも下関ライオンズクラブから贈られた桜が育って美しい並木となっており、本学でも同様にこの桜が大きく育って、両大学の友好関係を象徴してくれるようになることを願ってやみません。



## 就職活動

### あなたを必要とする企業は必ずある

教授 大内俊二(キャリア委員会委員長)

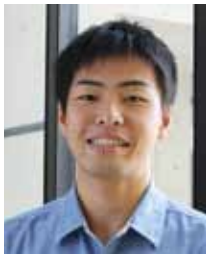
大手就職情報サイトによれば、本年8月末時点の大学生就職内定率は6割を超え、前年同月比2ポイント増とのこと。そう言われても、実際に就活を行っている多くの学生は、就職環境は厳しいものと感じていることでしょう。4年生のみなさん、就活は上手く行っていますか？

希望する企業から内定をもらい喜んでる人がある一方、未だに苦戦を強いられている人も少なからずいることでしょう。後者に属する人は、大企業ばかりに目が行っていませんか、自分が本当にやりたい職種は何か、今後成長が見込める産業や企業についてリサーチしましたか、自分自身の就活について静かに慮ってみて下さい。また、一人で悩んでいる人は、是非キャリアセンターに足を運んで下さい。スタッフの笑顔にまず救われますよ。キャリアセンターは、学生一人ひとりが自分に合った就職ができるよう最大限のサポートを行っています。

あなたを必要とする企業は必ずあります。諦めずに辛抱強く頑張ってください。市大生の健闘を心より祈っています。

### 京都府庁内定

経済学科4年 石井真澄(京都府立宮津高等学校出身)



私は公務員が第一志望でしたので、民間企業を志望している方とは少し取り組み方が異なるかもしれませんが、大きな違いはないように思います。

私が就職活動を通して重要だと感じたポイントは2つです。

まず1つ目は、「何か一つでもやりきる」ということです。これはよく言われることですが、

学生生活の中で些細なこと一つでもやりきったと言えることがあれば、話に軸が通るので安定感が生まれます。

2つ目は、「やりたい業種や仕事にこだわりすぎない」ということです。これは、学生が持ちうる知識や印象だけで視野を狭めるのはばかかっているし、もし営業として働くなら取り扱う商品が違うくらいで大きな差異はないと私は考えるからです。だから、説明会に行くなどして知らなかった世界に触れ、働く環境だけでなく自分自身がどう働くのかというビジョンについて考えを深めるべきだと思います。

公務員の筆記試験対策としては、時間の使い方や自分にあった勉強法などは試行錯誤を繰り返す必要があるため、潜水の様に一度やると決めたら最後まで続ける忍耐が大切になります。

面接に取り組む姿勢としては、考え方一つで緊張しにくくなると思います。私は面接を、学生の話や管理職クラスの方に聞いていただけるかなかなかないチャンスだと考えていました。

最後に、就職活動は長い期間頑張り続けたいといけなくて疲れるとは思いますが、何事も続けることが大事なので、後悔の無いように自分のペースで頑張ってください。

### 広島県信用保証協会内定

経済学科4年 大橋史寛(広島県立廿日市高等学校出身)



現在、皆さんのなかには「自分が将来何の職業に就きたいのかわからない」「就職活動は何をしていいのかわからない」という心境の人もいると思います。私自身はそうでした。就職活動の序盤では、私は出来るだけ毎日、多い日には1日に3社など、様々な業界の説明会に足を運びました。前述のような心境だった私でも、様々な説明会に参加し、人事の方のお話を重ねていくうちに業界業種についての知識が増えていき、段々と「こん

な仕事もしてみたいな」と思うようになりました。

自分自身の就職活動を振り返ってみると、初めて面接に受かるまでがとてつらかったです。私の場合、2月の後半から面接がいくつか入ってきましたが、初めの約1ヶ月間はことごとく落ちてしまいました。そこで、先輩やキャリアカウンセラーの方に面接官役になってもらって練習をし、また企業が主催する就活セミナーにも足を運びました。その甲斐があって、3月末に初めて1次面接を通過することができ、それからは1次面接ではあまり落ちなくなりました。私は早い段階から面接の練習を重ねることはとても大切だと思います。また、たとえ面接で落ちてしまっても、「ニーズが合わなかった」と割り切ってしまう事も就職活動をスムーズに進めるためには大切だと感じました。

最後に、早いうちからキャリアセンターや先輩方をフルに活用させてもらい、少しでも多くの情報を入手することをお勧めします。

### 株式会社ゆうちょ銀行内定

国際商学科4年 伊藤朱里(愛媛県立西条高等学校出身)



私は公務員の受験勉強と民間企業の就職活動の双方に取り組みました。2年次から学内公務員講座を受講し4年次には予備校に通い、また3年次の12月後半からは民間企業の説明会にも参加しました。視野を広げるためにいろいろな業界の説明会に参加し、約3ヶ月の間に30数社に履歴書を送りました。最終的に、笑顔と明確な主張と熱意が内定につながりました。

就職活動において大事なことは「体力」と「気力」です。私の場合は、愛媛→下関→愛媛、翌日に岡山、翌々日には東京→下関と移動することもあり、3ヶ月経つ頃には体力的に限界を感じました。また就職活動では、つらいことも苦しいこともたくさんあります。志望していた企業の最終面接に落ちたときは、本当に心が折れそうになりました。しかし、「縁がなかっただけ。自分にはもっと適している企業があるはず。」と自分を奮い立たせ、次の日には就職活動を再開しました。

就職活動は個人的な闘いでありながらも、周りの方々の助言や言葉に救われたり、励まされたりすることが多々あります。就職活動を通して周囲の支えを実感し、日々のコミュニケーションの大切さを学びました。

あきらめなければ、結果は出ます。就職活動を楽しんでください。

### 大正製薬株式会社内定

国際商学科4年 各務文哉(岐阜県立多治見高等学校出身)



就職活動をする前、私は就職活動をする事にとってもプレッシャーを感じていました。なぜなら、どこに就職するかで自分の一生が大きく変わってくると思ったからです。また、アルバイト先の先輩や、部活動の先輩たちが順調に内定をもらっている姿を見て、果たして自分もちゃんと就職できるのか不安でいっぱいでした。おそらく就職活動を始める人たちは、誰もがこの

ような思いをします。

私が就職活動を経験して、一番アドバイスしたい事は、「縁」を大事にする事と、気持ちの切り替えを上手くして欲しいという事です。私の場合、地元の金融機関に就職したいという思いがあり、銀行や信用金庫などを中心に試験を受けていました。中でも特に行きたい会社がひとつふたつあり、そういう会社に限って、1次試験で落とされてしまいました。就職はどれだけ自分が強く入社したいと願っても、自分とその会社がマッチしていなければ、簡単に振り落とされてしまうのです。縁あって内定が出たところが、自分に合っている会社であり、試験に落ちてしまったら、自分に合っていなかったんだと切り替える事がとても大切です。

就職活動中は不安が大きくなるので難しいかもしれませんが、流れに身を任せて、あまり張り切ることなく肩の力を抜いて、自分のペースで就職活動をしてください。結果は自然とついてくると思います。

## インターンシップ

### 実社会で様々な就業体験ができるインターンシップ

教授 松本義之(キャリア委員会副委員長)

本学キャリアセンターでは、学生のキャリア教育の一環としてインターンシップによる就業体験学習を行っています。インターンシップに参加した学生は、様々な事業体において貴重な就業体験を得ることが出来ます。また、学生の職業意識を育成し、就業力向上に繋げることが出来ます。

大学主催でインターンシップが行われるようになってから12年目になりますが、多くの学生が学内インターンシップに参加するようになりました。海外の事業体に学生を派遣する国際インターンシップも大学主催で行っており、中国・韓国の8事業体に対して8名の学生を派遣することができました。また、学生が自主的に事業体を探して行う学外インターンシップも数多くの学生が参加しています。その中で8事業体8名の学生が単位認定を申請しました。全体として52事業体・92名の学生が、インターンシップに参加・単位申請を行っています。

派遣前には学内で事前学習を行います。インターンシップを行った後も、報告書の作成指導・報告会での発表など、様々な面から学生の就業体験をフォローする体制を整えています。また、キャリア教育科目として単位認定されます。

### 東京海上日動火災保険株式会社

国際商学科3年 久保谷 健 (広島国際学院高等学校出身)

今回、私は東京海上日動火災保険株式会社のインターンシップに参加させていただきました。広島で初開催ということだったのですが、とても充実したものでした。

事業内容の説明、損害サービス部では判例を使っての分析と弁護士事務所同行、営業部では代理店訪問同行、グループワークなど、普段では体験することが出来ない場を数多く体験させていただきました。体験させていただく中で、働くということを改めて考えさせられました。これまでは自分自身の為に働くという気持ちが大きかったのですが、就業体験をしていくにつれて、影響力の大きさなどから、それぞれ分野は違えど、社会をよりよくするために働いているのだと感じました。そしてそれが、自分自身の成長につながり、成長することで社会に貢献できる影響力が増えるというように循環していくのだなと感じました。

5日間はあっという間だったのですが、学んだことを糧に私自身も社会に貢献できる社会人になりたいと感じました。



### 特定非営利活動法人環境みらい下関

国際商学科3年 水廻 紳 (広島県立賀茂高等学校出身)

私が今回インターンシップに志望した理由は、「社会に出て働く」とはどのようなものかを体験したかったからです。実社会では指示の有無にかかわらず、主体的に考えて行動しなければなりません。アルバイトとは違う、より実務的な仕事を体験し、目前に控えた就職活動の準備をしていきたいと考えました。

環境みらい下関では、環境問題からゴミの減量及び再資源化を促す取り組みを行っています。東日本大震災以降、節電や資源の再利用がより強く叫ばれています。実際に体験することで、自然エネルギーによる持続可能な社会の未来を考えることが出来ました。また、事務処

理だけではなく廃材を利用した用具作りなどの様々な仕事をし、貴重な経験を積むことが出来ました。

インターンシップを経験した事で、今後の就職活動に向けて就業意識を高めることができて、非常に有意義でした。



### 釜山ロッテホテル

経済学科3年 西村実華 (福岡県立八幡中央高等学校出身)

私が今回韓国でのインターンシップに参加したのは、せっかくなら海外で研修をして刺激を受けたいという軽い気持ちからでした。第二外国語が朝鮮語だったことも理由のひとつです。しかしながら、実際ホテル業務の研修が始まると、自分の朝鮮語がとても未熟であると痛感しました。それでも、皆さんは要領を得ない私に辛抱強く説明してくださいました。私も少しでも何かを吸収しようと必死に聞き続けた5日間でした。

私が研修を受けたのはベルデスクという部署でした。主に、ロビーでの対応や荷物の預かりを行います。私は見学するだけしかできないと思っていましたが、ロビーでお客様へのあいさつ、荷物の預かりや返却、簡単な道案内、日本人客の対応など様々なことを体験させていただくことができました。

「もっと朝鮮語が話せれば…」と思う場面も多々ありましたが、華やかなホテルを支えるスタッフの皆さんの姿を見ることができ、またわずかであっても自らサービスを提供する側に立つ経験ができてよかったです。



### 三井物産(青島)有限公司

国際商学科3年 段 娟娟

私が三井物産のインターンシップを志望した理由は二つあります。一つは3年生の夏休みをよりよく過ごすためです。そのために、インターンシップに応募しました。インターンシップに参加すると、自分の視野が広くなり、自己分析ができます。幅広い年齢層の人たちと交流することもでき、コミュニケーション能力が高められます。二つ目の理由は就職活動の準備のためです。私は貿易に興味があったので、三井物産という商社を選びました。今回のインターンシップを通して、私は本当にこの業界に適しているのか、貿易業界で働ける人間なのかを見極めたいと考えていました。

研修期間は5日でした。期間は少し短いですが、様々な業務内容を勉強することができました。会社の方は忙しい時期にもかかわらず、毎日親切に業務内容を説明してくださいました。更に外に出て、実際の現場を見学させていただくこともありました。この5日間、自分の目で見て、身をもって、貴重な経験を積むことができました。

今回、三井物産のインターンシップを通して、改めて、もともと関心があった貿易業界に就職したいと目標が明確になりました。一方で、今回のインターンシップを通して、日頃の勉強不足を感じました。日本語、英語、貿易に関する知識、全部まだまだだと思います。在学中に努力して、社会人としての準備のために頑張っていきたいです。



## 外国研修

### ■夢の世界・サンフランシスコ

国際商学科2年 森安時生 (岡山県立岡山城東高等学校出身)

今回のサンフランシスコ研修が生まれて初めての留学でした。サンフランシスコに行くまではかなり不安でマイナスなことばかり考えていました。もしこの研修に参加しなかったら多分そのまま同じ事を考え続け、外国に行く勇気もないまま人生を終えていたでしょう。そして井の中の蛙のように日本というちっぽけな世界しか知らなかったでしょう。それほどサンフランシスコという街は大きな世界でした。学校ではスイス、韓国、メキシコなどいろいろな国からきた人たちに出会えました。日本と違ってみんな背が高いのにも驚きましたが、誰もがフレンドリーで自分の意見をはっきり言うことには圧倒されました。自分の意見をはっきり言うことは見習わなければと感じました。

アメリカは治安が良いとは言いきれませんが、普通に暮らせば全く問題はありません。毎日が夢のような生活でした。

サンフランシスコで上手に英語は話せなくても、いろいろな国からの様々な考えを持った人たちと頑張って話し、価値観の違いや人の温かみを知ることが出来ました。どんな形でもいいから日本の外に一度は出てみるべきです。本当に今後の人生に大きく影響するすばらしい体験でした。



### ■韓国研修を終えて

経済学科2年 田原志野 (山口県立小野田高等学校出身)

研修期間中は朝鮮語の勉強はもちろん、観光やショッピングも楽しめ、韓国を存分に堪能することができました。また日常生活の中で韓国独特の文化に触れることはとても新鮮で、何気ない日常ですらかつてないほど充実していました。一日一日があっという間で、2週間という短い期間ではありましたが、熱く濃い毎日を送れたことに満足しています。

しかし、韓国へ旅立つ前からこの研修に期待を抱いていたわけではありません。充実した毎日が送れるとは思いませんでした。もともと友人と参加する予定だったのですが、訳あって友人は皆参加を辞退してしまい、研修に参加する経済学科の2年生は私だけでした。やはり一人だけという状況は心細く寂しさや不安がかなりありました。

しかし、実際に参加してみると毎日が楽しく刺激的で、今では行って良かったと心から思います。一緒に参加した研修生、東義大の先生方、チューターの皆さんも優しく素敵な方ばかりで、彼ら彼女らに出逢って共に過ごすことができて本当に良かったです。もし来年年度の研修参加を迷っている人がいるなら、私はぜひ参加することをお勧めします。



## 留学

### ■魅力あるトルコへの留学を経験して

国際商学科4年 西田味加 (岡山県立津山高等学校出身)

1992年にボアジチ大学と本学の交流が始まり早くも20年が経ちます。そんな中、今回12年ぶりに本学からの派遣留学生として、ボアジチ大学に留学しました。私がトルコへの留学を希望した理由は、私自身が歴史的・文化的背景のあるトルコに行くことで他の日本人にもトルコの魅力を知ってもらいたい、また、私の留学を機に今後もボアジチ大学との交流が円滑に進められ、派遣留学を継続してほしいという願いがあったからです。

高い英語力が求められるボアジチ大学では、週2回のレポート提出、毎回実施の小テスト、チームプロジェクト等の課題を通して、外国で勉強する厳しさを痛感しました。

また、異文化や多民族のつぼみであるイスタンブールに身を置いて生活することで、宗教礼拝、トルコ料理、ベリーダンス等を体験し、トルコの魅力だけでなくその社会構造や問題点に気づき、トルコの本質がわかるようになりました。当初は全く話せなかったトルコ語も次第に習熟し、現地の人との会話も増え、バザールでの値段交渉も楽しくできるようになりました。今後は、留学で得たトルコの魅力をたくさんの人に伝える活動をしていきます。



### ■後悔しないために、まず挑戦してみる

国際商学科4年 三藤達也 (広島県立祇園北高等学校出身)

私が中国留学を考え始めたのは、自分の大学生活を振り返ってみた時、全てが中途半端に感じ、卒業までに“何か”したいという漠然とした思いからでした。2年生の夏頃から“中国という変化の激しい国の実態を直に見るチャンスは今しかない”、また“中国から見た日本について知りたい”という思いが強まり、青島大学への留学を決意しました。

こうして始まった私の派遣留学でしたが、実際に中国で暮らしてみること、日常会話では苦労しないほどの語学力が身に付き、その中国語を通じて、各国の留学生ともコミュニケーションをとることができるようになりました。また、語学だけでなく、急速な経済発展を遂げる中国の現状を肌で感じることができました。

この1年間は瞬間に過ぎ去ってしまいましたが、中国という国で、より人間味あふれる人々との出会いに感動したり、また悩まされたりと、私の人生の中で一番充実した時間で、一番成長できた1年でした。

留学は、今までにない多くの経験を積むことができる良い機会になると思います。少しでも留学に興味を持っているなら、ぜひチャレンジしてみてください。“後悔しないために、まず挑戦してみる”という気持ちが、成功につながるということは今回の留学で私が得た大きな収穫です。



## 世界の厨房から

国際交流会ともだちサークル部長 国際商学科3年 **和泉憲明**  
(福岡県立小倉南高等学校出身)

7月6日(金)、本学の厚生会館にて私たち国際交流会ともだち主催の「世界の厨房から」を開催しました。毎年恒例の本行事ですが、今年度は初参加のフィリピン、ベトナムをはじめとし過去最多の8カ国が参加しました。料理に関しては事前に各国の留学生と国際交流会の学生が話し合い、試食会を重ねました。この準備段階を通じて日本人学生と留学生の仲が深まりました。

当日はたくさんの方々にご参加いただき、150食分準備した料理が瞬間になくなりました。そして留学生による華やかな日本舞踊も加わった「世界の厨房から」は大盛況の内に終わりました。私達自身も満足のいく交流になったと思います。

また今期で交換留学を終えるジャクソン君、マイケル君、マヨさん(共にオーストラリア)の送別会をサプライズで行いました。3人も喜んでくれて、企画して良かったと感じるとともに、今後のサークル活動に向けたモチベーションの向上にもつながりました。

今回お越しくださりました皆様、本当にありがとうございました。これからも国際交流会ともだちサークル一同、より良い行事を企画するよう努力していきますので、ご協力くださいますようお願いいたします。



## 第43回下関市立大学英語弁論大会

E.S.S.弁論大会チーフ 国際商学科3年 **渡辺貴大**  
(熊本県立鹿本高等学校出身)

6月23日(土)、本学にてESS主催の第43回下関市立大学英語弁論大会を開催しました。今年は全国6大学から11名の学生が参加し、昨年にも増して大きな盛り上がりを見せました。

審査は、発表者が事前に用意する Prepared Speech と大会当日にランダムに与えられるテーマによるスピーチ Extemporaneous Speech の2つの総合点で競います。本大会の見所は Prepared Speech で流暢にスピーチできた発表者が、Extemporaneous Speech でも即興性を発揮し、上手にスピーチができるか否かというところにあると思います。スピーチを聴きながらその成果を感じることはおそらく、英語学習の意欲を掻き立てられます。

本学からの出場者、佐野純一さん(写真)は素晴らしいスピーチを披露し、堂々たる2位を受賞しました。佐野さんは昨年の大会に出場予定でしたが急病のため出場ができませんでした。

た。リベンジ出場の今年は、Prepared Speechでの独特な演題「Bicycle lesson」で会場を大いに沸かせました。

英語弁論大会は無事終了しました。発表者の皆さん、審査員の先生方、そしてご来場の皆さんのご協力に感謝いたします。来年の第44回大会にも、英語学習者達の熱気を感じに是非いらしてください。



## 発展途上国で感じた幸せの価値観とは

国際商学科3年 **岡本和樹**(山口県立大津高等学校出身)

あなたは電気も、水道も、ガスもない生活を体験したことがありますか?私は大学に入ってから2度、ベトナムとケニアでの海外ボランティアに参加しました。まず最初に私にパンチを喰らわせたのは、日本とは比較できない程の生活水準の低さでした。ボランティア中は、川の水を飲み、1時間かけて火を起こしました。お風呂もありませんでした。でも、最高に楽しかったです。厳しい生活環境にある途上国の現実でしたが、日本とは比べものにならない程のワクワクで満ちていました。

私はそれぞれの国で孤児院支援を中心に活動しました。子供たちのパワーや笑顔に毎回うれしい驚きをもらいました。彼らは毎日一生懸命楽しんでます。そんな彼らと一緒に生活し、決して裕福な暮らしをすることだけが幸せだとは限らない、本当に大切なのは心の満足度ではないのかと感じました。

私はこれから大学を休学して1年間、世界一周しながらボランティア活動を行います。たくさんのことを学び、経験していきたいと思います。



## ■新任挨拶

准教授 **重田美咲**



10月より着任いたしました重田美咲です。専門は日本語教育(日本語を母語としない方々に日本語を教えること)で、主に留学生用科目である「日本語」を担当しています。日本語教育の中でも「専門日本語教育(何かを専門とする人のために特化した日本語教育)」に関心があり、下関市立大学で経済学を学ぶ留学生の手助けになるような日本語の教材開発にも力を入れていきたいと思っています。また、留学生と日本人学生との交流の機会が更に増えるような方法を思案中です。下関市立大学の日本人学生全員に在学中必ず留学生と交流する機会を持ってもらいたいと強く願っています。日本人学生にとっても留学生にとっても国際交流は成長する大きなチャンスだと思います。そんな成長のお手伝いができれば…と思います。どうぞ、よろしく願いいたします。

青島大学から張淑玲先生を客員研究員として招聘いたしました。  
(平成24年10月1日～平成25年3月31日)

退職

李 亮 特任教員(平成2年4月1日～平成24年3月31日)  
22年間にわたり本学の朝鮮語教育にご尽力をいただきました。

## ◆第51回 下関市立大学 馬関祭

大学祭実行委員会委員長 国際商学科3年 筒井勝也  
(香川県立高松北高等学校出身)

今年も大学祭を無事終えることが出来ました。今年の「START」というテーマのもと築きあげた大学祭は、天候にも恵まれ、大きな問題もなく本当に素晴らしい大学祭になったのではないかと思います。「START」のテーマにちなんで新たに企画したフォトアートも、来場者皆様の協力の下完成させることが出来ました。大学祭に足を運んでいただいた方や準備している学生たちの写真を基に1つの大きな絵を作ることで、大学祭を全員で作りに上げることの素晴らしさが少しでも伝わったのなら幸いです。また、昨年同様チャリティービンゴも行い、およそ5万円の義援金を日本赤十字社に募金しました。皆様のご協力に感謝いたします。



最後になります、今年馬関祭に協力して頂いた皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



## ◆第5回 鯨資料室シンポジウム

10月6日(土)13時30分から16時20分まで、本学本館I-206教室で「我が国の南氷洋捕鯨の変遷をたどる～商業捕鯨から調査捕鯨へ～」と題した第5回鯨資料室シンポジウムを開催しました。この日はちょうど大学祭期間中だったため、市民を含めた約70人の来場者があり盛況でした。第1部は、本学地域共創センター委嘱研究員岸本充弘氏による昨年発見された貴重な資料の報告で、中部利三郎氏が第二日新丸事業部長として戦前南氷洋捕鯨に出漁した昭和15・16年の漁場日誌の紹介でした。第2部は、本学が毎年継続して行っている捕鯨に関する聞き取り調査(オーラルヒストリ)を、今回は公開で実施しました。「我が国の商業捕鯨全盛期を回顧する」というテーマで、岸本氏が聞き手となり、岡村昌幸氏(元捕鯨労組執行委員長)と東芳次氏(水産会社資料館前副館長)による鼎談でした。岡村氏による南氷洋捕鯨の経験談と、社史を編纂した東氏による会社内における捕鯨部の紹介でした。第3部は、今年開設された公益財団法人下関海洋科学アカデミー鯨類研究室の石川創室長による「調査捕鯨の現状とこれから」と題した講演で、



現在行われている調査捕鯨の実情を分かりやすく解説し、シーシェパードによる妨害活動の生々しい映像も交え、今後の調査捕鯨の展望まで示した内容でした。

## ◆木浦大学校との学術交流

教授 横山博司(地域共創センター長)

本学と韓国の国立木浦大学校とは、2010年5月28日に交流協定を締結していましたが、その締結に基づいて、本年度共同研究に関する協定を、本学の地域共創センターと木浦大学校アジア協力センターとの間で、木浦大学校を訪問して、8月10日(金)に締結しました。

共同研究のテーマは、下関市と木浦市の特色を活かした「特定水産物による地域活性化に関する研究」です。本学からは、濱田教授を中心にフグブランド研究会のメンバーが参加しています。木浦大学校からは、アジア協力センターの高教授、朴教授を中心とするメンバーです。

下関市がフグで有名であるのに対して、木浦市はニベが有名です。アジア協力センターでは、「ニベと文化遺産を活用した地域活性化戦略」をテーマに研究を実施します。ニベはトラフグと同様高級魚で、韓国では、夏を乗り切るための魚、日本でいうウナギに相当する魚ということです。互いに情報を交換しながら共同研究を推進して行く予定です。本学では、すでに研究を開始している「フグを用いた観光活性化」についての研究情報を木浦大学校に提供するとともに、木浦大学校の研究も参考にしながら、フグを用いた地域活性化についての研究を展開していきます。

研究協定締結日に、早速、第1回のシンポジウムを実施しました。本学からは、濱田教授が「水産物ブランド化のポイント」、森准教授が「下関フグブランドの現状と今後の展望について」、木浦大学校からは、高教授が「木浦市の固有価値を利用した地域活性化の戦略」、朴教授が「食と近代文化遺産を連携した木浦市のブランド化-ニベと近代文化遺産を中心に-」というテーマで研究発表を行い、会場の参加者とともに、活発な議論がなされました。次回は、本学で研究会を実施する予定です。



## ◆名誉教授称号授与

この3月に本学を退職された雲島悦郎前教授、佐々由宇前教授、吉津直樹前教授、金子肇前教授に、名誉教授の称号が与えられることになり、6月21日(木)の本年度第3回の教授会に先だって授与式が行われました。

いずれの先生も本学で要職を担われ、ここでは書き記せないほど本学の教育の発展に貢献されました。今後のご健康とご活躍をお祈りいたします。



## ●春学期卒業式

9月30日(日)、本館Ⅱ棟5階大会議室において、平成24年度春学期学位記授与式が挙行されました。卒業確定者13名のうち、経済学科5名、国際商学科2名が参加しました。一人ひとり学長から卒業証書を受け取り、学長から「運・鈍・根」の言葉がはなむけとして送られ、滞りなく式はすすみました。

また、式のあとには数名が学長室を訪問し、学生生活の振り返りや今後についてなどの話をし、和やかな雰囲気の中、本学を巣立っていきました。



## ●50周年記念事業シンポジウム

7月14日(土)本館Ⅰ棟206教室で、50周年記念事業の締めくくりとして、「英国と下関」と題した学術講演およびシンポジウムを開催しました。昨年10月に落成した新管理棟(本館Ⅰ棟・Ⅱ棟)は、下関市に保存されている旧英国領事館をモチーフにした外観となっており、往時の下関が英国をはじめとする諸外国との窓口であったシンボリックな建物であるこの旧領事館に因んで、下関と英国とのつながりについて考えてみようとしたものです。

本学の卒業生でもある大島商船高等専門学校田口由香講師は、「英国から見た幕末下関」と題した基調講演を行い、長州の攘夷や四カ国連合艦隊砲撃事件など幕末の下関で起こった出来事を、イギリス側の史料を中心に紹介しながら解説しました。パネルディスカッションでは、櫻木晋一学部長が、旧領事館の建つ唐戸近辺の幕末から明治期の様子を古地図や古写真を使用して説明した後、大阪学院大学の郡司健教授が「英国と下関ー長州砲ー」と題して、ロンドンやパリなどヨーロッパに残っている長州砲について自らの調査結果を写真とともに紹介しました。会計学が専門の郡司教授は、郡司家が菽藩砲術家の家柄なので、ご先祖探しの旅でもあったようです。福岡県企画・地域振興部の河合宏一次長は元下関市総合政策部長で、現在はしものせき海響大使も務められており、下関駅と長府間にロンドンバスを走らせた人物です。河合氏は「英国における政治主導の実際」と題して、氏の専門とするイギリスの行政制度について3年間にわたる在英日本大使館勤務中に調べられたことを、日本と比較しながら解説されました。5月の記念式典から始まった一連の50周年記念行事は、盛会のうちに無事終了しました。



## ●ユースカレッジ

本学が下関市と協力して、下関市内在住・在学の中学・高校生を対象にした「下関ユースカレッジ」が、この夏初めて開校されました。本校開催の主旨は、下関の若者たちが自分たちの郷土について誇りを持って語れるだけの知識を本学と市役所が提供しようというものです。7月23日(月)は開講式に引き続き、中尾友昭下関市長の「下関を知っていますか」という講義があり、

市長自らが下関の現状について生徒たちに熱く語りかけました。8月10日まで、合計7回の講義(90分×5回)や現地見学(180分×2回)が行われ、おもに本学教員と市の職員が講師を務めました。講義の内容は、下関の歴史、観光、文化、産業、食など多岐にわたっています。3時間の現地見学(フィールドワーク)を設け、市大のマイクロバスを使用して、長府の博物館見学と町並み散策、ものづくりの現場探索ということで三菱重工下関造船所とやまぐち県酪乳業の見学が行われました。最終的には11名が修了証書を手にして、元気よく巣立って行きました。



## ●未来大学

本年度から、地域貢献の一環として、従来の公開講座に加えて、新たに下関未来大学が開校しました。1回ないしは数回の公開講座と比較して、より専門的に、大学の講義に近い形で、一つのテーマについて10回の講義を、下関市と本学が共同で実施します。6月3日(日)に開校式が行われ、中尾下関市長の「下関未来大学への期待」というテーマで、第1回目の講義が行われました。

未来大学には、3つ講座があります。下関の歴史や暮らし、観光や文化、地域の企業や経済、地域で活動するNPO等について学ぶ「関門地域学科」。「東アジア学科」では、東アジアの諸国の歴史や文化について学ぶことを目的としていますが、本年度は、韓国の企業の歴史や現状、文化・観光、食や韓流ドラマをとおしてみる日韓交流、在日韓国・朝鮮人の戦後史等について学びました。「食と健康学科」では、市の健康政策、酒の飲み方、食品との付き合い方や食の安全について、地産地消の取り組み、生活習慣や運動、食と心や体との関係についてなどの多彩な講義が行われました。

講師には、本学の教員、市役所職員、市民病院の医師や看護師、地域社会で活躍する人、韓国からの留学生や釜山市の観光協会会長といった多彩なメンバーが参加しました。



## ●平成24年度防災訓練の実施について

9月20日(木)に、下関北消防署員の指導を受けながら、防災訓練を実施しました。学生、教職員、生協職員及び地域住民の約150名が参加し、消火、避難及び放水の各訓練を行いました。

本学体育館は災害時の避難場所として下関市から指定されており、また平成21年に地元大学町自治連合会と防災協定を締結していることから、災害発生には様々な場面で地域との関係が密になるため、地元住民にも広く参加していただきました。

参加者は、水消火器を使った消火器の操作、屋内消火栓を使った放水、救助袋を滑り降りる避難訓練を体験しました。



## 平成24年度 春季大会成績

### ■硬式庭球部

全日本大学対抗テニス王座決定試合中国四国地区大会 3部 優勝  
北九州・下関地区大学体育大会  
シングルス 優勝 中溝宏司/ダブルス 優勝 中溝宏司・石田弘樹

### ■卓球部

春季中国大学学生卓球大会 男子団体 3部 優勝

### ■バドミントン部

春季山口県学生バドミントン大会  
男子団体 準優勝/男子単 3位 高嶋大貴  
春季北九州・下関地区大学体育大会  
男子複 ベスト4 曾我修司・竹田雄紀 /女子団体 準優勝

### ■男子バスケット部 SUリーグ 優勝

### ■女子バスケット部 春季山口県学生バスケットボール大会 4位

### ■男子バレー部

春季山口県学生バレーボール競技選手権 Aリーグ 3位

### ■女子バレー部 春季山口県リーグ 出場

### ■ハンドボール部

春季中四国学生ハンドボール競技選手権 出場

### ■フットサル部

春季北九カップ 優勝  
春季全国大学フットサル大会山口県大会 4位

### ■サッカー部

中国大学サッカーリーグ戦 2部Bブロック 出場  
総理大臣杯予選 出場

### ■陸上部

下関ナイター陸上II 男子800m 3位 山口勝之

### ■空手道部

第59回北九州・下関地区大学体育大会  
男子個人組手 4位 佐々木由明/男子個人型 4位 堀田洋史

### ■紫電流空手道部

第2回紫電流空手道選手権大会 男子個人 3位 安岡大貴

### ■弓道部

春季北九州・下関地区体育大会 女子団体 3位  
全日本学生弓道大会 個人県予選 出場

### ■少林寺拳法部 第40回山口県少林寺拳法大会 組演武

一般男子級拳士の部 2位 山口朗史・諏訪公二郎  
一般男子初段の部 1位 安藤数馬・林拓真  
一般男子三段の部 2位 黒岡真太郎・亀鷹皓平  
一般女子級拳士の部 2位 宮崎美穂・小林侑花  
一般女子初段の部

1位 池本愛美・田桑みどり / 2位 高吉亜衣・小野内梓

### ■剣道部

西日本学生剣道大会 団体 出場  
中四国学生剣道大会 団体 出場

### ■柔道部

中四国学生柔道体重別選手権大会 出場

### 全国大会出場

#### 少林寺拳法部

安藤数馬・林 拓真・池本愛美・田桑みどり



第67回国民体育大会・  
ぎふ清流国体 馬術競技  
(成年女子二段階障害飛  
越競技)に国際商学科3年



猪俣亜理沙さんが出場しました。本学に馬術部はありませんが、猪俣さんは幼少期から馬術に励み、山口県代表選手として国民体育大会の出場を果たしました。

結果は残念ながら入賞を逃しましたが、「今後も日々の努力を怠らず、今回の経験を次回につなげたいと思っています。」と感想を述べられました。今後も活躍が期待されます。

### ■行事記録 (2012年7月～10月)

- 7月 6日 世界の厨房から
- 12日 関門地域共同研究会成果報告会
- 14日 50周年記念事業
- 21日 オープンキャンパス
- 23日 台湾国立聯合大学との覚書調印式
- 8月 1日 春学期定期試験(～7日)
- 5日 オープンキャンパス
- 8日 クリーンキャンパスデー
- 28日 下関市内大学交通問題懇話会
- 9月 3日 大学コンソーシアム関門共同授業(～7日)
- 11日 集中講義(～14日)
- 15日 大学院入試
- 20日 防災訓練
- 21日 秋学期授業開始・履修登録受付
- 29日 オープンキャンパス・  
第4回中国語スピーチコンテスト
- 30日 春学期卒業式
- 10月 5日 大学祭(～7日)
- 6日 第5回鯨資料室シンポジウム・  
第22回日本語スピーチコンテスト

## シンポジウムの案内

# 点検評価シンポジウム

平成24年12月6日(木) 開会 13:30

※詳細につきましては、ホームページをご覧ください。

## facebook

### 公式フェイスブックを公開しました!

近年、フェイスブック等のソーシャルメディアは利用者が急増し、社会的に大きな影響力を持つようになってきました。大学情報の発信手段としてはもちろん、学生や卒業生、保護者、そして入学を検討している受験生に対しても、情報共有の手段としての役割が期待されています。以上のことから、本学においても公式にフェイスブックを運用することとなりましたのでお知らせいたします。



【公式フェイスブックページURL】

<http://www.facebook.com/ShimonosekiCityUniv/>